



【韓国】 総合指数は週間で0.2%安と4週ぶりに反落、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.2%安と小幅に4週ぶりに反落した。週明け20日は前週末の米株安を受けて前週末比1.8%安と大幅に続落し、3000ポイントを割り込んだが、21日以降は総じて堅調に推移し、24日は終値で3000ポイントを回復した。12月1-20日の輸出が前年同期比20%増と好調だったことが好感されたほか、半導体不足が来年に改善され、7-9月期の業績も想定以上のものになるとの見方から半導体大手のサムスン電子やSKハイニックスなどが買われた。新型コロナ変異ウイルス「オミクロン株」の世界的な感染拡大が続いているものの、経口治療薬の承認などを受けて過度な警戒感が後退し、投資家心理も改善した。今週は大みそかで31日が休場となるため、4日間のみの取引。年末とあって上値は重くなりそうだ。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は0.1%高と小幅に3週ぶり反発、今週も原油相場が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.1%高と3週ぶりに小幅反発。週初に下落したものの、欧米株高や原油相場の上昇を好感し、その後に反発した。新型コロナウイルスのオミクロン株への警戒感を背景とした欧米株安や原油安を受け、週明け20日は前週末比1.6%安と大幅に続落。21-22日に続伸し、22日には終値で1600ポイントに乗せたが、週後半は対ドルでのルーブル安や原油相場の反落を受けてさえない展開となった。ただ、週間ではブレント原油が3.6%高と反発し、ルーブルは対米ドルで0.6%上昇した。個別では鉄鋼のセヴェルスターリが5.0%上昇し、指数を押し上げた一方、エネルギーのルクオイルが5.3%、スルグトネフテガスが2.2%、産金のポリュスが3.5%下落し、指数の重しとなった。今週は欧米株や原油相場が焦点か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.2%安と3週ぶり反落、今週も神経質な展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.2%安と3週ぶりに反落。高値警戒感が強まる中、主力銘柄が上下に振れる神経質な展開となった。前週まで続伸し、過去最高値に接近しつつあるVN 指数は、週明けから22日までは主力株が高安まちまちとなったものの、指数は小幅な振れ幅にとどまった。週後半はやや荒い展開。幅広い銘柄に利益確定売りが強まった23日は前日比1.4%安と大きく崩れたが、24日は押し目買いが強まったことで1.4%高と反発した。個別銘柄では食品加工のマサン・グループ8.6%高と急騰し、金融のベトコムバンクが5.1%高、ティエン・フォン・バンクが3.3%高。一方、金融のSSI証券が6.6%安、不動産のビンググループが5.4%安、エネルギーのペトロベトナム・ガスが3.3%安と軟調だった。今週は引き続き神経質な展開か。

▼指数チャート



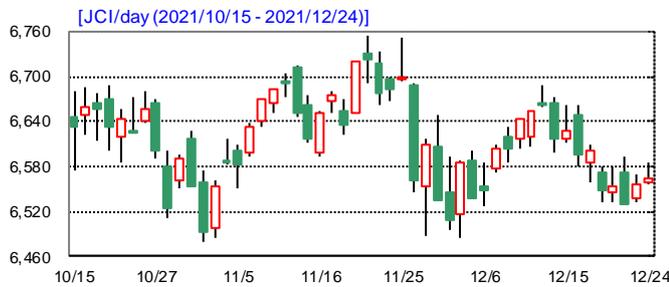


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.6%安、今週は 6600 ポイント台回復に期待

ジャカルタ総合指数は週間で 0.6%安と続落。不安定な値動きが続き、1 週間を通じて 6500 ポイント台での取引と軟調だった。週初の 20 日は、欧米でオミクロン株の感染が拡大し、世界経済の先行き不透明感が広がった影響で、指数は反落。21 日は中国株の上昇に連動して反発したが、22 日は引け際に売り込まれて下落した。ただ、23 日に買い戻されると、24 日はオミクロン株の感染による重症化リスクが低いとの調査結果が公表されたことを受けて、前日の NY ダウが上昇した流れで続伸して引けている。今週も国内の経済イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開か。31 日は大みそかのため休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.1%安、オミクロン株の感染拡大懸念で週初に下落

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.1%安と続落。オミクロン株への警戒感による週初の下落が響いた。20 日は世界的な株安に連動して、前営業日比 1.2%安と続落。ただ、21 日に反発すると、その後はオミクロン株を巡る懸念が後退した効果で、じりじりと上値を広げた。半日立ち合いとなった 24 日は、11 月の鉱工業生産が前年同月比 14.6%増と市場予想を上回ったほか、新型コロナの飲み薬への期待などから前日の NY ダウが上昇した効果で、4 日続伸して引けている。今週は国内の経済イベントが少なく、中国の 12 月の公式製造業 PMI を含む外部要因が意識されそうだ。31 日は大みそかのため半日立ち合い。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.3%安、今週は 29 日に 11 月の鉱工業生産発表

SET 指数は週間で 0.3%安と 3 週ぶりに反落。週初の下落が痛手だった。20 日は前週末の NY ダウが下落した流れを引き継ぎ、前営業日比 1.6%安と続落。ただ、21 日に反発すると、22 日は政府が前日に新たな景気刺激策の実施を決定したほか、中央銀行が今年と来年の GDP 成長率見通しを上方修正したことが好感されて続伸した。23 日は特別配当の割り当ての可能性が浮上したアドバンスト・インフォ・サービスが指数上昇をけん引したが、24 日は利益確定売りで 4 日ぶりに反落して引けている。今週は 29 日に 11 月の鉱工業生産、30 日に 10 月の小売売上高が発表される予定。31 日は大みそかのため休場となる。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.0%高、今週は 28 日に 11 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は週間で 1.0%高と続伸。週後半の上昇が指数を押し上げた。週初の 20 日はプレス・メタル・アルミニウムとテナガ・ナショナルが指数下落を主導し、4 営業日ぶりに反落。21 日は米国の強制労働による製品の禁輸措置強化を受け、ゴム手袋メーカーのトップ・グローブとハルタレガが売られて続落した。ただ、22 日に世界経済に対する楽観的な見通しから買い戻されると、23 日は引け際の買いが奏功し、終値で前日比 1.1%高と続伸。24 日は前日からほぼ横ばいで引けた。今週は 28 日に 11 月の貿易統計が発表される予定で、前年同月比の輸出入額はともに 2 桁増が続くと見込まれている。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。